

2022 年 8 月 4 日

11 月祭事務局

第 64 回京都大学 11 月祭全学実行委員会への提案

1. 議事（案）

- (1) 第 64 回京都大学 11 月祭の統一テーマについて
- (2) 第 64 回京都大学 11 月祭の開催形態について
- (3) 大学との交渉について
- (4) 第 65 回京都大学 11 月祭の日程について

2. 第 64 回京都大学 11 月祭の統一テーマについて

6 月 30 日(木)から 7 月 31 日(日)にかけて行われた統一テーマ投票の結果、「「3 回生でしょ、NF の知ってること教えて」「わ、わかんないっぴ…」」が得票数で 1 位となった。

得票数の詳細は別紙 1 を参照してほしい。

以上の結果より、第 64 回京都大学 11 月祭の統一テーマを「「3 回生でしょ、NF の知ってること教えて」「わ、わかんないっぴ…」」

(趣意文：「現在の学部 3 回生は、入学直後の何もわからない時から突如とした休講やオンライン化に直面してきました。それは NF についても例外ではなく、3 回目となる NF も、正直なところ直近 2 回のオンライン開催こそあれ、その実態や本来の姿を全くと言っていいほど知りません。にもかかわらず、気づけば学部の折返しを迎えてしまいました。この焦りや困惑を伝えるとともに、逆にいっそ 1,2 回生と同じ目線で、実質初めての NF を楽しもうというメッセージを添えて、このテーマを応募します。」)

にすることを提案する。

3. 第 64 回京都大学 11 月祭の開催形態について

第 64 回京都大学 11 月祭の開催形態について、以下のことを報告する。

大学(課外活動掛)からは、

- ・吉田南グラウンドの使用は、感染状況にもよるが、現時点(6 月下旬)では問題ないだろう。
- ・会場内での飲食は、現在の新型コロナウイルスの流行状況や大学のガイドラインから実施が難しいものである。
- ・屋内については、大学はこれまで教室を 11 月祭のために貸し出してきたが、毎年のように多数の破損・汚損が発生したため、11 月祭への信用がなく、教室の衛生管理を保てないとの理由で貸出が難しい。

と言われている。

これらについて、第一に 11 月祭は学生の日々の課外活動の成果を発表する必要不可欠な機会であり、また文化の継承の観点からも重要な機会であるので、それらの意義を強調しながら、強く大学と交渉していきたいと考えている。

事務局としては、飲食模擬店企画に関しては、イートインスペースの設置や出展規模の縮小などを行えば、日常生活と比べて感染リスクが極端に高まるものではなく、感染リスクを抑えた上での実施は十分可能だと考えており、他大学の学園祭の実施状況を鑑みても社会通念上実施は可能であると感じる。そのため、大学の一律に禁止しようとする姿勢は到底納得できるものではなく、以上の点を主張し大学と協議していく方針である。屋内については、11 月祭の全参加者に呼びかけを行ったり、壊れやすい物品の保護を行ったりするなど、自主管理を徹底する姿勢を示し、信頼を勝ち取りたいと考えている。

4. 大学との交渉について

前回の全学実行委員会において、事務局の大学との交渉に全学実参加者が参加してサークルの声を届けたい。その際、予め大学に全学実参加者が参加するとは言わずに、大学の反応を見て今後の方向性を決めたいという意見が出た。

これについて、大学とは事務局名義(全学実行委員会本部事務局名義)で交渉しており、(事務局員でない)全学実参加者が交渉に参加するなら、全学実名義にする必要があると考える。大学に全学実名義と言わずに行くのは誠実さに欠けるためだ。

事務局としては、以上のような考えから、全学実参加者が事務局員でないことを隠して交渉に参加することは遠慮してほしいと考えている。

5. 第 65 回京都大学 11 月祭の日程について

前回の全学実行委員会(7 月 13 日)において、第 65 回京都大学 11 月祭の日程の大学との交渉期限はその週末だと延べた。そして、改めて交渉したが、やはり厳しく、要望が通らなかった。

その交渉の最後では、今後の 11 月祭のことを考え、11 月祭は学生主体のものであること、4 日間開催を保つようにすること、11 月祭の日程等、11 月祭の根幹に関わる事項であれば、大学当局が検討した段階で引き続き学生側に連絡すること、また、話し合いに応じることを強く要望した。

これを受けて事務局としては消極的に、第 65 回京都大学 11 月祭の日程を、11 月 22 日(水)～25 日(土)、片付け日を 26 日(日)に変更することを提案する。